４／４　校長室より №197

朝が楽しい季節　　宮沢 章二

なぜ　こんなに空がまぶしいのか
なぜ　こんなにこころがはずむのか
――朝が楽しい季節だからだ

幾たびも　幾たびも　訪れて来る
朝が楽しい季節の　光の道で
私たちは　ひばりの声を聞いた
色あざやかな草の芽たちに出会った

この朝の楽しさがあるかぎり
めぐまれる目ざめは　毎日新鮮
生まれたての　広野の蝶のように
いさぎよい自信が　生きる身を支える

朝が楽しい季節　を大切にしよう
楽しさは　卵のように温めていないと
ほんとうの喜びに孵化しないのだ

３月末から連日晴天が続いています。朝の寒さもずいぶん和らいできました。この天候に加えて、年度が改まったからでしょうか。朝がいつも以上に新鮮に感じられます。

上の詩は、私が担任をしていた頃、学級通信の第１号で紹介したものです。新年度を迎えた生徒諸君の心情と担任としての願いや期待を表しているようで取り上げました。

朝の楽しさ、新鮮さを大切にしたいのはもちろんですが、私が注目するのは最後の２行です。

「楽しさは 卵のように温めていないと
ほんとうの喜びに孵化しないのだ」

刹那的・享楽的ではなく、本当の楽しさとは何かを考え、楽しさを楽しさとして感じながら、それを持ち続けられる心や感覚を大切にしたいと思います。